

〔第74回企画展示〕

第4回 酒田の人物史料展



対局中の竹内淇洲 八段(左)

開催期間 平成5年2月4日(木)～平成5年4月18日(日)

開館時間 午前9時～午後4時30分

休館日 11月～3月 月曜日(月曜日が休日のときは翌日)
4月以降無休

入館料 おとな100円・児童生徒50円

65歳以上の方と身体障害者の方は無料です

酒田市立資料館

〒998 山形県酒田市一番町8-16
TEL(0234)24-6544

開催にあたって

『酒田の人物資料展』は、今回で第4回を数え延べ60人を紹介することができました。

「酒田には偉人が出ていない。」という人がいます。そういう偉人の実像とは何だろうか。世の中の人物を評して、「夜を照らす光もあれば、ホタルのように夜を際立たせるほのかな光もある。」といわれます。

確かに一つの特色として政権担当者や軍人などに傑出した人々の少ないのは、庄内・酒田の歴史的、社会的背景にもよるものであろうか。ともあれ、かつての歴史教育にみられた官尊民卑、政治家、思想家本位の顕彰に終わることなく、①郷土や地域のために、地域社会の各分野で尽力された人々に、もっとスポットライトをあててみましょう。更に、②政治、経済、外交などの面で大きな役割を果たしながら、意外と知られていない人々の業績など、あるいは、③その道一筋に精進し名声を得た人々も含めて、これら郷土の多彩な先人の業績の一端を紹介し、この人たちが郷土と

のかかわりで何を考え、どのように生きたかを謙虚に学びとって欲しいのです。

展示にあたっては、ご遺族の方々はじめ多くの関係者から貴重な資料をご出陳いただきました。厚くお礼を申し上げます。

今回も、当方の一方的な展示の都合で一部割愛させてもらったこと、また、資料が整わずご紹介できなかった多くの方々にもお詫び申し上げます。

酒田の人物資料展・プログラム

- | | |
|-----------------------------------|-----|
| ① 明治の青年群像（1880年代に生まれた人々） | 17人 |
| ② 郷土史を彩る人々（明治以前） | 25人 |
| ③ 地域社会の近代化に尽くした人々（1）
（明治～昭和前期） | 18人 |

【本年度】

- | | |
|---------------------------------|-----|
| ④ 地域社会の近代化に尽くした人々（2）
（明治～昭和） | 16人 |
| ⑤ 地方自治に尽くした人々（次回） | |

展示者のプロフィール



1852-1918

酒田港の発展に尽力した米商

荒木彦助(あらかきひこすけ)

米穀商、酒田商業会議所会頭。米の取引などで大活躍。最上川改修と酒田築港、また酒田町育英事業にも力を尽した。



1870-1951

台湾総督や警視總監として活躍した

太田政弘(おおたまさひろ)

官僚、警視總監、台湾総督。大正13年警視總監となり、のちに関東長官、台湾総督をつとめ、大正15年貴族院議員に勅選。



1896-1976

各種農機具発明に才能を発揮された

石井梅蔵(いしいうめぞう)

農機具発明者、工芸家。各種新式装置を考案して数々の表彰を受け、失明後、精巧緻密な工芸作品を制作し世の注目を浴びた。



1860-1933

日本一の大仏を建立した

大滝宗淵(おおたきしゅうえん)

僧侶、持地院第37世住職。日清戦役戦死者、酒田震災死亡者の供養のため、高さ13mの釈迦牟尼仏の仏像を建立、日本一といわれた。



1892-1922

文学少女として文芸界に名をとどめた

菊池リウ(きくちりう)

文人。幼少のころより文芸に秀で、文壇誌等に投稿してたびたび入賞、その才を詩人横瀬夜雨に認められた。



1858-1945

日本一の表具師と称された

久村清齋(くむらせいさい)

表具師。表具技術は実力日本一といわれ、また富岡鉄齋とも親交があり、画法の指導を受け晩年は南画を書いた。



1871-1930

地方文化の向上に業績をのこされた

佐藤良次(さとうりょうじ)

郷土史家。犬養木堂はじめ多くの文人墨客と交流があり、上田秋成の「雨月物語」を世に出し秋成の名を高めた。



1857-1910

最上川改修と酒田経済界を指導した

小山太吉(こやまたきち) 三代目

回船問屋、酒田商業会議所会頭。会議所の初代会頭となり、酒田経済界を指導、また最上川および河口の改修促進に尽力した。



1899-1986

「稲の杉山」と称された篤農家

杉山良太(すぎやまりょうた)

農業、篤農家。高位多収穫の農法を実地に研究して農家の指導にあたり、また山林事業にも力を尽くした。



1877-1947

酒田の棋道、剣道の振興に尽くされた

竹内丑松(たけうちうしまつ)

素封家、将棋八段。淇洲(きしゅう)ともいい、書、漢詩、剣道を修め、特に将棋は群を抜いていた。



1864--1931

自ら点字の普及に尽力した

橘 周 存(たちばな しゅうそん)

教育者。 4才のとき失明し、医学、鍼按術を習得して施療にあたる。そのかたわら家塾を開いて点字の普及につとめた。



1863--1927

近代木工界の名人といわれた指物師

鉄砲屋 浅 吉(てっぽうや あさきち)

指物師。 亀齋ともいい足腰が不自由なため座位の仕事に専念し、小机、硯箱などがいずれも逸品として珍重された。



1866--1933

酒田にはじめて教会堂を建てた

三 浦 鉄 造(みうら てつぞう)

牧師。 酒田で本格的な布教につとめ、また各種社会事業のほか、庄内砂丘メロン栽培の功労者でもあった。



1893--1974

県内初のオリンピック選手として活躍

茂 木 善 作(もき ぜんさく)

体育家。 大正9年、第7回アントワープ大会に県内で初めてのオリンピック選手(マラソン)として出場した。



1865--1924

酒田で唯一の旧海軍の将官となった

矢 島 純 吉(やじま じゅんきち)

海軍中将。 日清戦争で水雷艇攻撃隊長として活躍、水雷砲術の権威といわれ、のちに水雷学校長をつとめた。



1867--1929

酒田青年夜学会の開設に尽くされた

五十嵐 三 作(いがらし さんさく)

教育者。 琢成小学校長を20余年もつとめ、また青年夜学会を開いて青年教育にも尽力した。